



●勤務医に関する話題や投稿などで構成するコーナーです。勤務医生活の雑感、あるいは意見をこの欄にお寄せください。

●投稿要領…700字程度、名古屋市昭和区妙見町19-2、愛知県保険医協会「勤務医コーナー」係まで。薄謝進呈致します。

父と雀の友情

みよし市 市原 透

二〇一七年秋、福岡で開催された学会に参加したときを目にした出来事である。私は大きな池のある大濠公園の周遊道路を散策していた。すると一人の老人がパンくずを手にし、その周囲に雀が集まっているところに遭遇し思わず足が止まった。老人は決して餌を

待くことをせずしばらく待っていた。驚いたことに雀は老人の手から次々と餌をついばんだのである。警戒心の強い雀の習性から見てこれは驚きに値する。こんな現象を見かけることも聞いたこともこれまでついぞなかった。しかし、私はその時、子供の頃に同じ光

景を目にした事を思い出し、父が庭で餌を手にしながら野生の雀と戯れていたのである。雀は父の周りを飛び回り、父の肩や指にとまっては餌をついばんでいた。誠に不思議な光景であった。私がいくら呼んでも雀は決して私に近づこうとせず、父が羨ましかった事を覚えていた。

すると二〇一八年の月刊保団連十二月号の表紙を飾った第二十九回全国保険医写真展会長賞作品を目にして驚いた。題して「雀の学校」、公園で「餌やり人」

の手に二羽の雀が乗り、別の三羽があたかも餌をもらう順番を待っているように見えたとのことであった。雀が「餌やり人」に順番を待つよう教育されたかのようにならぬ、出展者はこのようなタイトルをつけたそうである。

おそらく、上述の現象は同じ野生の雀が日常同一人物に対して警戒心を解き餌付けされたものと推測されるが、普通にはあり得ないことであろう。

さて雀は都市でもよく見かけるありふれた小鳥であるが、最近はその数を大きく減らしていると二〇二〇年九月二十六日、朝のNHK番組で報道された。現在全国で推定わずか千八百万羽と驚くほど少ないそうである。そういえば見かける



ことが少なくなったという印象である。都市化とともに得られる餌がなくなること、さらに最近の新築住宅には巣を作る場がないということが個体数減少の主な理由だそうである。

環境汚染や破壊が気づかないうちに我々人類の存在を脅かしつつあると、雀の減少が警鐘を鳴らしているようにも思える。古来童話にもよく登場する私たちの古い仲間である雀の存在の意義を数の減少を知って改めて実感した次第である。